

佐古純一郎編

心を詩^{うた}う作家

三浦綾子の世界

心を詩う作家

三浦綾子の世界

定価 七二〇円

昭和五十二年三月八日 第一刷発行

編者／佐古純一郎

発行者／石川数雄

発行所／株式会社主婦の友社

<検印省略>

東京都千代田区神田駿河台一の六

郵便番号 一〇一

振替 東京二一八〇番

電話 東京〇三二九四一一二二(大代表)

もし落丁、乱丁、その他不良な品がありましたら、おとりかえます。お買い求めの書店か本社へお申しいでください。

印刷／共同印刷株式会社

目次

まえがき

佐古純一郎

4

第一部

人間

.....

7

自己

.....

25

他者

.....

43

言葉

.....

53

苦悩

.....

63

自由

.....

71

第二部

愛

.....

79

結婚・家庭・夫婦

.....

95

第三部

神……………109

罪……………121

死……………135

信仰……………143

祈り……………151

三浦綾子小論……………157
佐古純一郎

三浦綾子略年譜……………186

三浦綾子の世界収録作品……………191

装丁 堀 文子

まえがき

三浦綾子さんのもろもろの作品のなかから、三浦さんの人と思想をもっともよくあらわすことばや短文を選んで、読者になぐさめとはげましを与えるような書物をつくりたいという主婦の友社の企画に私は心から同意した。

それはかならずしも、容易な仕事ではなかったわけだが、三浦さんご自身と編集部のお意のもとに選び出されたことばや文章に、私なりの考えで「三浦綾子の世界」としての、一種の秩序を与えてみたのがこの書物の内容である。編集部のもとと、三浦さんのおゆるしを得て、私の解説めいた文章を加えてみたけれども、あらずもがなの感が深いのである。どうか、読んでくださる方々は、私の解説の部分はあまり気にしないで、どこまでも三浦さん自身が呼びかけるように訴えている深い意味を汲みとっていただきたい。

この仕事に参加させてもらって、私は、いまさらのように、三浦綾子という存在が、いかに深く神さまの恩寵のみ手にとらえられている人であるかに感動している。恩寵の光に照らし出されるとき、人間がいかに深いところまで凝視されることか、三浦さんのリアリズムはまさにそういう性質のものなのである。三浦綾子箴言集とでも呼ぶべきこういふ形

にしてみると、小説やエッセーとはちがったかくべつの味わいが感じられるのである。「生きること」「愛すること」「信じること」、やはり「三浦綾子の世界」はこの三つのごとびに要約することができるように思われる。そうして、「三浦綾子の世界」全体を、一条の金線のようにつらぬきささえているのは、深い深い三浦さんの祈りである。祈りは、三浦さんにとって「神との対話」にほかならないのだが、これらのことばは、すべてそのような祈りから生れているのである。この小さい書物が、「三浦綾子の世界」への正しい入門書になってくれることを私は心から祈っている。

一九七六年一月二一日

佐古純一郎記す

第一部

人間

生命に刻まれし愛のかたみ

要するに、何が揃っていても、「真実味」のない人はゼロに等しい存在です。

塩 狩 峠

人間で恐ろしいものね。わたしだって時と場合によっては、ずい分やさしくもなるけれど、自分でもいやになるほど意地悪にもなるわ。

信夫は、特に人間として生れたということを、大事に心に受けとめて、真の人間になるために、格別の努力を為されない。

人間には、命をかけても守らなければならないことがあるものだよ。わかるか？

人間にはどの人の心がいいか悪いか、ほんとうの話は見当がつかないんだよ。とにかく、天はどの人間も、上下なく作ったことはまちがいないね。

いいか。人間はみんな同じなのだ。町人が士族よりいやしいわけではない。いや、むしろ

ろ、どんな理由があろうと人を殺したりした士族の方が恥ずかしい人間なのかも知れぬ。

帰りこぬ風

人間は人間によって本当の元気を、つまり生きる力を与えられるかなあ。

ああ、生きるって一体何なのだろう。人間が生きるとは、ただ単に肉体の命があると
いうことではないのだ。

生きることをやめる権利は、人間にはありませんよ。

人は敗北した時、思想を持ちたくなるという。

裁きの家

制度の改革より、人間の改革に興味があるんですよ。制度がいくら理想的になっても、
人間がやくざじや、しようがありませんからね。なんせ事を複雑にしているのは、人間な
んですから。

金を持っている奴らは、いつだって人間を人間に扱わないですよ。

人間の生活の本当のことなんて、あんまり問い詰めないほうがいいわよ。誰だって、お前の心の本当の姿はどうだって言われたら、答えることのできないものを持つてるでしょう。

女性にはね、男子と同じく人格があるんだよ。人格と人格のつきあいは、手なんか握らなくたって、できるんだよ弘二……

人間って、ちょっと油断するとすぐに忘ける者になるからね。毎日の何でもないようなことでも、忘けないようにするって、大事だよ。

弘ちゃん、お金で働くなんて、一番いやしいことよ、……

人間で、目かくしをしたって、偏見なんか取り去れないんじゃないかなあ、……

足跡の消えた女

どんな人間でも百パーセント駄目だという人間は、いないはずだからね。

まあ、この世を見てごらんよ。不信とか断絶とかいって、お互いにお互いを見限っているじゃないか。人間は信じがたい存在だ。信ずるに値しない存在だ。しかしね、もう絶望するよりしようのない、ぼろくその人間同志だからこそ、なお希望を見いだす努力を、ぼくはしたいんだ。せめて知り合った者同志はね。知り合うまでは、ぼくも人を毛ぎらいするところもあるが。

ね、道代。ぼくもね、たぶんその病院はないと思うよ。しかしね、百パーセントないだろうその病院を、探しに行ってみようじゃないか。それが、あると言った津奈子さんへの、ぼくらの応答だ。人間の誠実というものは、そういうものじゃないのか。

愛すること信ずること

人間という者はまことに複雑なものだ。信じているといいながら、実はどれほど疑っているかわからないし、愛しているといいながら、実は何を思っているかわからない。

どんな人間だって、悪いところばかりあるわけではない。人に悪口ばかり言われるよう

な人間にだって、必ずよいところがあるはずだ。

人間はほめられることによって、思いあがったり、いい気になったり、人を見下したりする過ちを犯しやすいが、けなされることは、反省の機会を与えられるからありがたい。

氷 点

少しぐらいのいやなことは、人間はガマンをしなければだめよ。いやなことがあるたび、おばあちゃんのうちへきて、そのおばあちゃんのところもいやになったら、こんどはどこへ行くの。あそこもいや、ここもいやで、だんだん行くところがなくなるのよ。そして、人は自殺したりするんだよ。

人間って、あまりりこうじゃないんだよ。その親切な人が、ちょっといやなことをすると、すぐきらいになるのさ。

どんな人間でも拒まずに、一人一人を大事にするというのが教育の根本だよ。人間を大事にしないのは諸悪のもとだと、だれかがいつていたがね。

人間なんて、わたしはそれほど偉いとは思っちゃいない。自分の子供でさえ育てかねたり、自分の親をさえ邪魔にする人間どもだもの。人間なんて、わたしはそれほど高く買っちゃいない。

さびしさをまぎらすために子供を育てるなんて！人間の子はおもちゃではないんだぞ！もし、自分の子だとしたら、もし自分だったら……というように、いちいち換算しないと、ものごとを判断することができないのね。人間つてもさしがいくつもあるものね。

どす勤き流れの中より

おねえさん、人間にはね、お金をもらって気のすむ人と、お金をもらったために傷つく人がいるのよ。

病めるときも

人間は生きている限り、たとえこの雪夫のようなかわいそうな子にも、それぞれみんな何らかの使命が与えられている。使命があるというのは、すばらしいことじゃないかと、

源吉は明子に言った。

石ころのうた

人間はただ精一杯に生きていればよいというものではない。いかなる目標に向って、精一杯に生きるべきかを知らねばならないのだ。

何も知らぬ人間ほど、わきまえがなく、大きな口をききやすい。

人間というものは、一人一人、悪くもなれば、よくもなる可能性を持っている存在である。

続・氷点

人間は大過なく生きていても、威張ることはないし、過去を犯した人を、そう責めることもできないんだよ。

●自分一人ぐらいと思っではいけない。その一人ぐらいと思っている自分に、たくさんの人がかかわっている。ある一人がでたらめに生きると、その人間の一生に出合うすべての